

R6年度 学校評価書

令和7年3月27日

- 1 本年度の重点目標 ・挨拶をしっかりとしよう
 ・よく食べ、よく遊び、よく学ぶ

幼保連携型認定こども園
 新聞杉の子幼稚園園長

2 自己評価に対する学校関係者評価

※ A 十分成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果は感じられなかった

学校評価委員長

評価対象	評価項目	具体的取組	自己評価	園としての改善策等	学校評価委員の意見	評価
子どもを愛し、護り育てる力	子どもの人権 愛されていると感じられる保育 健康で安全な園生活	適切な言葉で、子どもの理解を得て、子どもとの信頼関係を築き、健康で安全な園生活を送る	A	学年の話し合いをよくして、急な対応でも困らないようにしておく	子どもの安心安全に生活できるための職員配置、環境構成、保護者対応、個人情報漏洩への危機管理能力の足りなさを感じる	D
子どもや同僚と共に育つ力	社会人・園の一員としての役割を持つ人間性豊かな保育者 自園の理念・方針の理解と実践をし、職場における同僚との連携 保育者の得意なこと、良さを自園の保育に生かし、保育の質を高める	園組織について理解し、同僚と連携しながら保育の質を高める	B	学年の話し合いをよくして、連携を取りながらお互いの良さを伸ばす	職員間では、新人でも誰でも自由に発言し、それを尊重し、認め合える構築を望む	B
幼児教育・保育理論を理解する力	幼児教育・保育の歴史や思想を知る 日本の幼児教育・保育制度を知る 幼児教育・保育を支える発達の理論を知る	認定こども園の目的・制度・乳幼児の発達について理解する	A	職員それぞれが意識を高め共有する	乳児期は特に月齢差もあり、育ちにも大きな差がある。一人一人の成長を認め、育ちを喜び合うことが大切だと考える	D
子どもを理解する力	子どもの育ちと経験の理解 特別な支援を必要とする子どもの教育 乳児の発達と保育	乳幼児や特別な支援を必要とする子どもを理解し、子どもの目線で見えて保育を行う	A	全体を見ながら一人一人が責任を持ち健康と安心安全に努め子どもをしっかりと見つめる	配慮が必要な子への理解とその保護者への対応は常に学ぶべきことであり、相手の気持ちによりそったものか全職員で再確認してほしい。研修は必須とすべき	D
保育を計画・実践し、評価改善する力	教育課程の編成と全体的な計画及び指導計画の作成 環境の構成と子どもへの指導援助 保育の振り返りと評価	環境や子どもの思いや遊びの状況を理解し、必要な指導援助をするための振り返りをしっかりとる	A	学年個人で日々の振り返りをして、記録に残しておく、指導援助に役立てる	子どもの主体性に活動を行っているか、心も体も健全な状態で生活できているか。行事のための保育ではなく、子どもが生き生きと活動できているかを振り返るべきと考える	C
保護者や地域と連携したり支援したりする力	保護者と地域との連携をはかる 子育ての支援 社会資源	幼保小の連携や地域の施設、自然、人を知り学び親支援もする	A	地域に溶け込み積極的に学校や近隣へ出かけ、子や親の支援もする	小学校の交流やS形デイサービス地域の子育てサロンなど、交流が少なく感じる。より連携を図り、新聞ならではの交流を望む	B

今後に向けての学校の考え(学校関係者評価を受けて)

今回は厳しい評価をいただいた。子どもが安心安全に生き生きと生活するために必要なことへ重点をおいて全職員で取り組む。毎日の生活において、クラスで振り返りの時間をしっかりと取れるようにしたので、今日の子どもの姿を明日へつなげていく。乳児部、幼児部と分けることによってそれぞれの特性を生かした保育教育をする。配慮が必要な子どもも増えてきたので、今まで通り研修参加や、講師を呼んでの園内研修にも務める。保護者指導もいろいろな家庭があるので相手の気持ちに寄り添いながら行っていく。地域(新聞)ならではの交流をするように努める。